

校長が考える学校経営の「一步先へ！」を実現する

R 5 年度 第 2 号
津山教育事務所 5 月

5月12日、AP訪問スタート！



子どもたちの
笑顔・元気のために

100校全ての小中学校・義務教育学校のAPがそろいました。新様式になり、書き方等で戸惑われた校長先生もおられたのではないかと思います。APの内容は、それぞれに、校長先生方の思いや子どもの成長への願いが詰まっています。

AP訪問では、校長先生のビジョンを少しでも実現していけるよう、参加者全員で考えを出し合いながら有意義な時間としていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

AP様式の「取組指標」欄の考え方

「誰が」「何を」「どれくらいの頻度で」「どのように」



R 5 年度版のAP様式では、「取組指標」の欄は、「誰が」「何を」「どれくらいの頻度で」「どのように」行うのかを『教職員の行動指標』として記述することが中心となっています。R 4 年度版では、「重点的取組」の欄か「取組指標・検証方法」の欄のどちらかに記述するようになっていました。今回は、このことをより明確に位置づけたことで、取組の具体性が増し、実効性も高まると考えています。さらに、担当や担任だけでなく学校全体で取り組む体制が向上すると考えられます。

【記述の仕方】可能な限り数値を入れながら、具体的にイメージできる行動指標として記述してください。例えば、「**充実する**」は、何をどうすることが「**充実**」なのか、「**共有する**」は、「**どうやって**」「**どういった視点で**」共有するかが分かるような記述が大切です。

